

1. 温泉

あわづおんせん ◇栗津温泉

栗津温泉は、加賀温泉郷(栗津・片山津・山代・山中 加賀四湯とも呼ばれている)の一つ。

養老2(718)年、奈良時代に白山開山の祖、泰澄大師によって発見、開湯されたことにはじまったという。白山大権現のお告げ通りに霊泉が湧いた後は、湯治宿が立ち並ぶようになり、約1300年を経てなお、その湯量は細ることなく湧き続け、歴史と共に北陸有数の近代的な温泉地として発展し、今日に至っている。明治に入って鉄道が敷かれるようになると、北前船は衰退したが、温泉軌道が敷かれ、全国から多くの人々で賑わうようになった。湯治客には文人墨客も多く、詩人的小説家として知られ、『田舎教師』などの名作を残した文豪・田山花袋は、全国の温泉を歩いた『温泉めぐり』のなかで『・栗津温泉が一番静かで居心地がよかった』と書いている。



8月には「おっしょべまつり」で毎年夏の名残を見物客も加わって賑やかに祭り情緒を楽しんでいる。下女「お末」と下男「竹松」の恋物語が祭りのおこりであるといわれている。栗津温泉街入口の交番前のポケットパークには2人の寄り添う像が出迎える。

大王寺は栗津温泉の守護寺である。慈悲深い薬師如来を祀っている。温泉街の中心から石段を上れば大王寺がある。杉木立に囲まれている境内には、開湯の祖泰澄大師像も祀られている。

足湯は平成23(2011)年に完成した。「瞑想の足湯」をコンセプトに作られた足湯は、日中は明るい日差しのもとで湯船に足を伸ばすことができる。また、夜は、天の川と流れ星が湯船周辺の床面の光ファイバーで演出され、天井や周囲のガラスの壁面には水の揺らぎが映し出される。足湯は午前6時30分から午後9時50分まで利用可能で夜間のライトアップは日没頃から夜9時頃まで。また、浴槽部分とベンチは屋根で覆われているので、天気の良し悪しに関わらずどんな時でも利用できる。



おっしょべ公園は、温泉街の中に広がる公園。公園には恋人の聖地である「幸せになる鐘」があり、カップルにも人気のスポットである。幸せの鐘を一回鳴らすと「恋が見つかる」、三回鳴らすと「愛が深まる」、五回鳴らすと「あの頃の想いが蘇る」といわれている。また、池の周辺を歩くと滝の音や緑の木々が心を癒してくれる。

① ^{あわづ おんせん そうゆ} 粟津温泉総湯 所在地：小松市粟津町イ79-1

- 温度：50.9度
- 効能：^{しんけいつう}神経痛・^{きんじく}筋肉痛、^{ひふびょう}皮膚病など



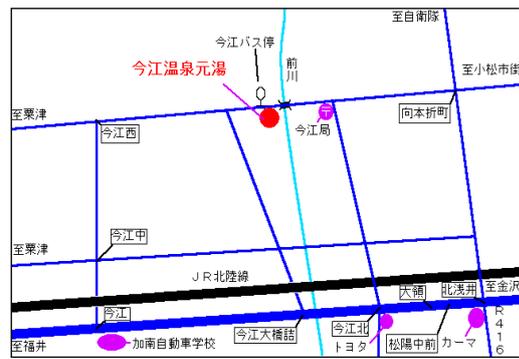
② ^{せんりゅうおんせん} 泉龍温泉 所在地：小松市平面町へ34-1

- 源泉かけ流し
- 効能：^{しんけいつう}神経痛・^{かんせつつう}関節痛・^{ひやせい}冷え性・^{ごじゅうかた}五十肩など



③ ^{いまえおんせん} 今江温泉 所在地：小松市今江町7丁目205

- 温度：44.5度
- 効能：^{ようつう}腰痛・^{しんけいつう}神経痛・^{かた}肩こり・^{ごじゅうかた}五十肩など



⑦里山健康学校 ^{さと}せせらぎの郷 所在地：小松市瀬領町丁1-1

●温度 33.0度

●効能 ^{しんけいつう}神経痛・^{きんにくつう}筋肉痛・^{ごじゅうかた}五十肩・冷え性



⑧ルートイングランティア小松エアポート 所在地：小松市長崎町4-116-1

●温度：50.5度

●効能：^{ひ りょうかいふく}疲労回復・^{ようつう}腰痛・^{しんけいつう}神経痛・^{かた}肩こり等



2. 神社仏閣

◇^{な た で ら}那谷寺 所在地：小松市那谷町ユ122

☆歴史

- **奈良時代初め 泰澄大師**・・・那谷寺を抱くようにしてそびえる白山は往古の昔、その気高い山容から、清らかで優麗な女神の住む山として神聖視され、信仰の対象となっていた。
奈良時代の初め、その白き山に登り、白山の神が十一面観音と同じ神であることを感得したのが「越の大徳」とよばれ、多くの人々の崇敬を集めた名僧・泰澄大師である。大師はさらに養老元(717)年、霊夢に現れた千手観音(十一面千手観世音菩薩)の姿を彫って岩窟内に安置した。大師は「自生山岩屋寺」と名付け、寺は大師を慕う人々や白山修験者たちによって栄えた。これが那谷寺開基の由来と伝えられている。
- **平安時代中期 花山法皇の命名**・・・平安時代中期の寛和2(986)年、花山法皇が行幸された折、岩窟内で光り輝く観音三十三身の姿を感じられた。法皇は「私が求めている観音霊場三十三か所はすべてこの山にある」といわれ、西国三十三か所の第1番・紀伊国那智山の「那」と、第33番・美濃国谷汲山の「谷」をとって「那谷寺」と改め、自ら中興の祖となられたと伝えられている。また、一向一揆の時代に改宗して一向宗に近づく僧や信者が続出、次第に勢力を弱めた。中世は那谷寺にとっていわば苦難の時代だったが、一部の修験者たちは命懸けで寺を護持、観音信仰と白山修験を捨てなかった。
- **江戸時代 前田利常公の再興**・・・江戸時代になって大きな転機が訪れた。境内の荒廃を嘆いた加賀前田家三代前田利常が寛永17(1640)年、名工・山上善右衛門を棟梁に岩窟内本殿、拝殿、三重塔の再興・造営をしたといわれている。書院はすでに寛永12(1635)年に完成し、利常自らがここに住んで山上善右衛門らを指揮したといわれている。本殿・拝殿・三重塔・護摩堂・鐘楼、書院などは重要文化財、書院から見える庭園は、茶道遠州流の祖である茶人大名・小堀遠州の指導を受け、加賀藩の作庭奉行・分部卜齋に造らせたものである。現在、庭園全体が国指定名勝となっている。明治維新後の廃仏毀釈の影響を受け、一時困窮したが、昭和初期に再建計画が進められていた。さらに昭和16(1941)年、利常ゆかりの建造物の多くが重要文化財(旧国宝)に指定されてからは加速度的に復旧がなされた。平成2(1990)年には金堂華王殿も再建された。

奇岩遊仙境について(参考)

奇岩霊石がそそり立つ奇岩遊仙境は、太古の噴火によって形成されたと伝えられ、風雪に削られたとされる洞窟は、縄文の時代より冥土として信仰されていた。そして弥生期後は胎内再生(ウマレキヨマル)信仰の対象として祭祀を行う場所となり、その後神仏習合となっても、古代の信仰は受け継がれてきた。

長い年月をかけて形成された奇岩は、大自然を神と崇める自然智の教えを旨とする那谷寺の本尊の一つでもある。華嚴経に説く観音菩薩の浄土「補陀落山」を思わせる奇岩遊仙境の光景は、人々に崇められてきた。奇岩遊仙境は周囲の木々や懸崖作りの本殿の外観と組み合わせ、優れた風致景観を形成している。

元禄2(1689)年8月5日この地を訪れた俳聖松尾芭蕉は、この風光明媚な奇石の風光を見て、紀行文学の傑作である「おくのほそ道」の中、那谷寺について触れ、名句を残した。

「(中略)奇石さまざまに、古松植えならべて、萱ぶきの小堂、岩の上に造りかけて、殊勝の土地也。

石山の石より白し秋の風

那谷寺の境内(奇石)は、「おくのほそ道」において「殊勝の土地也」と表現され、今も四季折々に美しい景観を見せ、「おくのほそ道の風景地」を構成する一群の風致景観の一つとして優秀であり、その鑑賞上の価値が高いとの理由で、平成26年3月18日国名勝指定となる。(指定面積 30,301.43㎡)

こまつてんまんぐう
◇小松天満宮

所在地：小松市天神町1

小松天満宮は、寛永16(1639)年に隠居して小松城に在城の前田利常の発願(前田家の祖を菅原道真として定めた)により、道真公を祀る社として、明暦3(1657)年に現在地に創建された。大工は加賀藩御大工の開祖となった人といわれ、建仁寺流(17代)を受け継ぐ山上善右衛門だ。善右衛門が手がけた建造物には他にも瑞龍寺、那谷寺、気多大社、妙成寺、大岩山日石寺があるが、善右衛門のフルネーム(山



上善右衛門嘉廣)が棟札により確定出来るのは当社創建の棟札のみである。また、昭和12(1937)年に尾山神社より宮渡りされた小松神社に前田利常をお祀りする。社殿は、利常の在城された3つの城である小松城本丸と金沢城と守山城を結ぶ線上に立地しており、明治維新までは金沢の観音院に出開帳の行われた歴史をもつ、我が国でも典型的な鬼門立地(小松城の東北の方角)の社といえる。なお、社とともに建立された別当在所の梅林院は明治維新後の神仏分離までは、天台宗に属し、連歌の間において法楽連歌が執り行われた歴史をもつ。また、小松天満宮は梅の名所としても知られ、学業祈願・合格祈願などの参拝客でにぎわう。

うはしじんじゃ すわ
◇菟橋神社・お諏訪さん

所在地：小松市浜田町イ233



菟橋神社の創建は古代にさかのぼり、慶雲元(704)年ともそれ以前とも伝えられている。全国の有効神社が記載された「延喜式神名帳」に「加賀国能美郡八座小並菟橋神社」として登載されている。

小松、金沢両城の守護神すなわち加賀国の守護神として崇敬が厚い。

春季例大祭・お旅まつりは5月上旬。曳山子供歌舞伎が有名で、全国三大曳山子供歌舞伎のひとつに数えられる。神輿

が小松城及び氏子町内を旅するので、その名称になったといわれている。

秋季例大祭・西瓜(水火)まつりは8月下旬、盤持ち神事、水火の神事で有名。神輿と本殿は前田利常の寄贈で小松市文化財に指定されている。また、俳聖松尾芭蕉は、かの有名な「おくのほそ道」の道中で菟橋神社を参詣している。

境内には、「志ほらしき名や小松吹く萩薄」の句碑がある。

◇^{もとおりひ よしじんじや}本折日吉神社・^{さんのう}山王さん 所在地：小松市本折町 1

創始は非常に古く、往古より能美郡^{とくほしごう}得橋郷、国府村の府南山に鎮座された。安元年中(1175～1176)の鶴川湧泉寺合戦の災害を受け、寿永3(1184年)年に現在の場所に遷座され、山王宮と称した。天正4(1576)年、若林長門が小松に城を築き、当社を特に尊崇し社殿を修理したが後年、柴田勝家の兵火にかかり殿宇の一半を失ったが、慶長年中、丹羽長重城主となるに及んで、当社を再興し神鏡、古刀等を奉納し、命じて本折八ヶ町^{うぶすなかも}の産土神となった。寛永17(1640)年前田利常が小松城に入城され、当社を崇敬し本郡の総社と定め、社地を賜り、毎年奉幣の儀あり、よって神輿渡御には大手門前にて家運長久を祈ったといわれている。享保2(1717)年、正一位の神段を賜り、明治8(1875)年、本折の郷という橋南一帯の広い地名をとり社名を本折日吉神社と改める。お神輿は昭和50(1975)年、小松市文化財に指定されている。



芭蕉の参拝：芭蕉は元禄2(1689)年7月24日に小松に着き、翌25日に俳人の日吉神社神官藤村伊豆守章重屋敷で催された「山王句会」において、次の句を詠んだといわれている。

「しほらしき名や小松吹く萩すゝき」

社内に「芭蕉留杖の地」の碑があり、この句が刻まれている。

◇^{あ たかすみよしじんじや}安宅住吉神社 所在地：小松市安宅町タ 17-2

大阪の住吉大社を勧請したといわれ、正保4(1647)年に東に霊峰白山、西に荒海日本海、眼下に源平古戦場の梯川を見下す景勝の地、石川県の安宅、二堂山(海拔15m)の頂^{いただき}(現在地)に建てられた。安宅の住吉さんと親しまれ、遠く天平年間の創建と伝えられる古社。昔は二宮住吉大明神と称された。古来、開運・厄除の神、海上陸上交通の守護神として広く崇敬されている。東に白山、西に日本海、眼下に梯川を見下ろす景勝の地、二堂山の頂きに鎮座し、境内には県指定の史跡「安宅の関跡」を始め、与謝野晶子歌碑、塩田紅果句碑、森山啓文学碑等もあり、四季を通して訪れる人は多い。



代表的宝物は後藤才次朗作の古丸^{こまいぬ}谷狛犬一对、安間桃春作の安宅の関の図。全国唯一の難関突破の守護神としても有名である。

◇^{ただじんじや}多太神社 所在地：小松市上本折町72

八幡さんといわれ、延喜式内社、武烈天皇五年、
継体天皇が勸請され、寛弘5(1008)年松ヶ中原八幡
官を合祀して多太八幡官と称した。寿永2(1183)年
木曾義仲が詣でて、斎藤実盛の兜・鎧の大袖、臙
当(明治33(1900)年旧国宝に指定、現在重要文化
財)等を寄進した。小松城主丹羽長重をはじめ、前
田利常らが社領、神宝を寄進。古来皇族・武将・文



人・遊行上人などの参詣が多く、その後の宮、清六八坂神社・光谷水上社を併合した。

芭蕉は元禄2(1689)年におくのはそ道の途中、本社に詣で、実盛の兜に寄せて

「むざんやな甲の下のきりぎりす」と感慨の句を捧げている。

◇^{すあまくまのじんじや}須天熊野神社 所在地：小松市須天町1-43



須天は洲浜なる島にて、表の熊野神社が元久元年
(1204年)島の裏に鎮座の少彦社に御本社として遷座、
洲浜熊野神社と称し、前田利常の崇敬厚く、神主屋
敷等寄進された。境内のいぼ池は諸病平癒と疣をと
ること奇妙で、日常参拝者が多い。

明治初年須天熊野神社と改称。明治6(1873)年村社
に列格。明治39(1906)年、神饌幣帛料供進神社に指
定されている。

◇^{よししまじんじや}葭島神社 所在地：小松市大川町2-122

寛永16(1639)年前田利常が小松城に隠居する際、
金沢から小松へ招かれ、現在とは違った場所だが、
梯川のそばに土地を与えられ諸社堂を造営し「五穀
寺」と称した。しかし、洪水が起こった時に流され
大破してしまったので、正保元年(1644年)、現在の
場所に新たに社が建立された。その際に小松城の守
護神として葭島に鎮座していた「稻荷大明神」を合
祀し、「稻荷社」と称された。



爾来藩主別段大社格に取扱われ、城内士族を氏子として毎年正月に、国家安泰、五穀豊穰、
商工業繁昌御祈禱を行っている。前田利常公と縁極めて深き当社には、古くより公の御霊
を斎祀り、明治14(1881)年5月2日郷社になった。明治39(1906)年12月29日、神饌幣帛
料供進神社に指定。本殿は昭和44(1969)年2月18日に石川県指定文化財になった。

◇^{はたさやじんじや}幡生神社 所在地：小松市吉竹町へ253

釜谷さんとよばれている。神社庁によると、延喜式内社で養老2(718)年泰澄が幡生神と薬師如来が同一であるとして造建にかかり、天平宝治2(758)年、淳仁天皇が本社に国幣をささげられてより、爾来322年間、奉幣の儀が行われた。文治5(1189)年、富樫泰家が深く崇敬して神領を寄進し、社殿堂塔を再建し、前田利常が幡生の総社・呉服名神・加賀絹の守護神として、深く崇敬したので、小松の機業家や織士の参拝が多くなった。昭和40(1965)年、稲荷神社と白山神社を合併。昭和45(1970)年に社殿改築。平成5(1993)年不審火により全焼。平成10(1998)年に再建された。



◇^{けんしょうじ}建聖寺 所在地：小松市寺町94



建聖寺は、曹洞宗永平寺派で永流山建聖寺と称し、本尊は涅槃像の釈迦牟尼仏。開基は、金沢の大乗寺第十三世雪窓祐捕が、永禄11(1568)年、能美郡寺井野村(現在の能美市寺井町)に一字を建て陰栖したのが起源。二度ほど転居し、寛永17(1640)年前田利常の小松入城に際し、城郭拡張のため現在の地に百坪を与えられ転居し、今に至っている。

元禄2(1689)年7月24日(陽暦9月7日)、松尾芭蕉一行が句会を催した寺(曾良旅日記には「立松寺」)ではないかとされている。

◇^{らいしょうじ}来生寺 所在地：小松市園町チ6

来生寺は初め、天台宗のお寺だったが、後に改宗(真宗大谷派)した。

小松城の城門を移築した門が有名である。この門は小松城二の丸にあった鰻橋御門(間口7間、奥2間半の長屋門)で、今では小松城の遺構として貴重な建物となっている。



3. 小松の真宗六ヶ寺

数多い寺の中で、以下の六寺院を古くから「六ヶ寺」と呼んでいる。

◇^{ほんがくじ}本覚寺 所在地：小松市寺町37

- ・宗 派：真宗大谷派
- ・正式名称：足羽山本覚寺

開基は親鸞^{しんらん}聖人の弟子、和田ノ親性。

初め(14世紀頃)は和田道場と呼ばれていた念仏道場で真宗高田派に属していたが、応長元(1311)年本願寺第三世覚如の時代に本願寺に帰依する。本願寺第七世存如の時代に寺号を「本覚寺」の公称するようになった。

開創した当時、越前の和田の庄(現在の福井県)にあった。永正3(1506)年九頭竜川の戦いで朝倉氏に敗北したことにより加賀国に逃れた。以後、同寺は超勝寺とともに加賀に逃れた越前門徒のまとめ役を担った。しかし、後に加賀門徒と加賀亡命中の越前門徒の争いが寺院間の争いに発展して大小一揆の一因となった。

永禄10(1567)年に朝倉氏との和解により越前国への復帰が認められるが、加賀国の本坊も残された。慶長7(1602)年本願寺の東西分立において、東本願寺第十二世教如を支持して東派(大谷派)に属した小松本覚寺と西本願寺第十二世准如を支持して西派(本願寺派)に属した和田山本覚寺(福井県吉田郡永平寺町)に分かれて現在に至る。



◇^{ほんこうじ}本光寺 所在地：小松市本折町52

- ・宗 派：真宗大谷派
- ・正式名称：真宗大谷派松陽山本光寺

約一千年前、天台宗円満寺として開創され、約540年前に本光寺と名を変更する。地域に開かれたお寺を目指しており、現住職の考えで、もともとあった高い塀を取り払ってある。



◇^{ほんれんじ}本蓮寺 所在地：小松市細工町28

- ・宗 派：真宗大谷派
- ・正式名称：燕山本蓮寺

文安元(1444)年綽如上人の二男・頓円鸞芸が能美郡津波倉で創建。江戸時代に一円の触頭^{ふれがしら}を加賀藩より賜った。

永禄9(1566)年浜田町に寺基を移す。寛文6(1666)年、細工町に寺基を移す。寛文10(1770)年、郡中御影^{ぐんちゆうごえい}の争奪戦が繰り広げられ、能美郡の門徒衆が本蓮寺などを打ち壊す事件が起きた。天保15(1844)年、寺の後堂出火より全焼し、嘉永元(1848)年に島町出身で北前船の海商であった向栗崎の島崎徳兵衛の寄進によって再建される。明治11(1878)年、明治天皇が北陸を巡幸、宿泊される。親鸞^{しんらん}聖人絵伝四幅^{れんによ}(蓮如上人裏書)が、小松市の指定文化財に指定されている。



しょうみょうじ
◇ 称名寺 所在地：小松市西町96

- ・宗 派：真宗大谷派
- ・正式名称：佐々木山稱名寺

源頼朝配下の佐々木三郎盛綱の創設による。手取川流域の根上赤井村から、寛永9(1632)年龍助町に移転する。

宝永元(1704)年龍助町から発生した火事によって類焼し、西町に土地を求めて十八世了慶、十九世亮空、二十世了諦の三代を経て、二十一世了明の時に至ってようやく本堂・庫裏の完成をみた。

文化年間に小松に大火が起こり、称名寺も類焼した。安政5(1858)年本堂の完成となる。現在の本堂はこのときのものである。また、山門は明治42(1909)年7月に門徒から木材の懇志を受けて建てられたものである。



しょうこうじ
◇ 勝光寺 所在地：小松市東町87

- ・宗 派：真宗大谷派
- ・正式名称：打越山勝光寺

室町時代本願寺五世の^{しやくにょ}緯如上人が北国へ下向したとき、加賀市弓波の地の村人の請いによって天台宗諦通院の跡地に寺基を興し、勝光寺と称したといわれている。

一向専修の念佛道場として門徒大衆の心の拠りどころとして、今日に至るまで護持相續されてきた。しかし、その間に度重なる災難にも見舞われ、殊に16代住職^{ゆうけい}祐稽時代の天保4(1833)年に全焼の難に遭い、その後、2度の火災に見舞われた。



かんきじ
◇ 勸帰寺 所在地：小松市東町88

- ・宗 派：真宗大谷派
- ・正式名称：大垣山勸帰寺



寛永19(1642)年、現在の寺地は前田利常より東町に地を賜るとある。2度の火災で本堂も全焼し、現本堂は昭和16(1941)年第2次世界大戦勃発の年に建立された建物である。

寺には、小松市指定文化財として郡中御影と呼ばれる^{しんらん}親鸞^{けん}聖人御影^{ごえい}顕^{けん}如上人御影二幅があるが、これは織田信長が、当時大阪の石山本願寺を攻めた折、能美郡中の浄土真宗の念仏者が、命がけで本願寺を守ったごほうびに、教如上人から文禄4(1595)年に能美郡の門徒衆に贈られたものである。



4. 観光スポット

◇^{なただら}那谷寺 所在地：小松市那谷町ユ122

養老元(717)年、泰澄大師が岩窟に千手観音を安置したのが始まりと伝えられる真言宗名刹。

中世、兵乱により堂塔はことごとく焼失した。ほとんどの建物は寛永17(1640)年に小松城に入城した前田利常によって再興された。

ここを訪れた松尾芭蕉が、「石山の石より白し秋の風」の名句を残している。



◇^{あたか せき}安宅の関 所在地：小松市安宅町タ140-4

源頼朝の追手を逃れ、奥州に落ちのびる途上の義経一行が、弁慶の機転と関守富樫左衛門の温情で無事通ることができたという「勸進帳」の舞台。これにちなんで、「難関突破」のご利益がある安宅住吉神社では、歌川国芳の錦絵も見学できる。

「安宅の関」こまつ勸進帳の里では、雄大な日本海の夕日を眺めながら憩いの時間を過ごすことができる。また、令和2(2020)年7月にリニューアルした「勸進帳ものがたり館」では、古典芸能解説者・葛西聖司さんの解説で歌舞伎「勸進帳」の映像を見ることができる大型シアター、衣装や隈取り^{くま}体験ができるARなどが導入され、子どもや外国人観光客も楽しめるように工夫されている。



◇^{がんくついでん}ハニベ巖窟院 所在地：小松市立明寺町イ1

ハニベとは、昔、埴輪^{はにわ}を作る土で彫刻を作る人のことを言い、現在の彫塑家のことを言う。岩窟は洞窟を意味し、院は寺ということで、つまり彫塑家の作った洞窟の寺ということである。ハニベ巖窟院は、一彫塑家が元石切り場を利用して、洞窟内に百数十体に及ぶ仏像を作り安置したのがはじまりで、究極の地獄巡りができる日本最大の仏洞である。



ひきやま
◇こまつ曳山交流館みよっさ 所在地：小松市八日市町72-3

“歴史・文化と伝統が彩るまち：小松駅西地区”に平成25(2013)年5月にオープンした。小松駅西地区は、町人文化の代表「曳山子供歌舞伎」をはじめとして、町家、寺社、九谷焼など先人から受け継いだ地域資源が集積している。

小松の匠の技と粋を結集した豪華絢爛なお旅まつりの八基の曳山のうち、二基を常時展示。250年の歴史ある曳山の迫力と魅力を間近で見ることができる。



もり
◇ゆのくにの森 所在地：小松市栗津町ナ3-3

昭和63(1988)年にオープン。石川県が全国に誇る伝統工芸の創作体験ができる複合施設。広大な敷地(13万坪)には、県内外から移築した江戸・明治時代の茅葺屋根の古民家が点在し、それぞれが伝統工芸(九谷焼、輪島塗、加賀友禅など)の数々の体験ブースとなっており、加賀の国の文化を楽しむことができる。



にほんじどうしゃはくぶつかん
◇日本自動車博物館 所在地：小松市ニッ梨町一貫山40

クラシックカーが約500台展示されている。車の歴史を知ることのできる、またマニアにとってたまらない車の博物館である。建物の前には現在も動くことの出来るクラシックカーが展示されている。建物の内には、往年の名映画に登場する車も、各国を代表する車もずらりと展示されている。



いしかわけんりつこうくう
◇石川県立航空プラザ 所在地：小松市安宅新町丙92

平成7(1995)年11月、小松空港前に日本海側唯一の航空資料館としてオープンした。アクロバット飛行機T-2ブルーインパルスやピッツS-2B、南極観測隊が使用していた飛行機など総数17機の実物展示機、多数の飛行機模型、写真、パネルなどで航空文化が学べる。

本物のYS-11シミュレーターのほか、セスナ機、旅客機、戦闘機型の簡易シミュレーターで操縦の模擬体験ができる。平成24(2012)年4月に子供たちのためのプレイエリア「ぶ〜んぶんワールド」がオープンした。国内最大級の飛行機型大型遊具(飛ぼう〜ん)及び雲をイメージした雲型クッション遊具(はねるう〜ん)がある。また、「キッズスペース」も誕生し、3歳以下のお子様も保護者の付き添いの下、安心して遊ぶ事ができる。さらに、小松空港をイメージした滑走路の上をプラズマカーで滑走もでき、大人も子供も天候・季節に関係なく楽しめる施設として大人気である。



◇サイエンスヒルズこまつ 所在地：小松市こまつ^{の杜}2

「科学と交流」の拠点として、平成26(2014)年3月にオープンした。“ものづくり精神の継承と科学技術意識の啓発”を目的とした「ひとものづくり科学館」、 “未来に向けた地域の活性化と産業振興”を目的とした「こまつビジネス創造プラザ」の2つの施設で構成されている。科学館では日本最大級のドーム型「3Dスタジオ」やものづくりの現場と科学の原理を融合した体験展示場の「ワンダーランド」など楽しさや驚きの体験が施設内外に盛りだくさん。



◇こまつ^{もり}の杜 所在地：小松市こまつ^{の杜}1

コマツ創立90周年記念事業の一環として、一般の人や子供たちが建設機械に対して親しみを持ってもらえるよう、平成23(2011)年5月、小松工場跡地に「こまつ^{もり}の杜」がオープン。



ここには、「コマツウェイ総合研修センター」が建設され、コマツグループ社員のグローバル

な人材育成の機能を担っている。また、一般開放エリアとして、旧本社社屋を復元した「わくわくコマツ館」、加賀地方の里山を再現した緑地「げんき里山」、世界最大級のダンプトラック「コマツ930E」の展示場も設けられている。

創業100周年にあたる令和3(2021)年6月15日にリニューアルオープン。わくわくコマツ館・わくわくコマツ2号館を、「わくわくコマツ歴史館」「わくわくコマツキッズ館」としてリニューアル。新建屋の「わくわくコマツ未来館」では売店も拡張し、新しい体験エリアにした。また、世界最大級のダンプトラック「930E」の横に、新たに超大型油圧ショベル「PC4000」を設置された。

◇カブッキーランド 所在地：小松市土居原町10-10 こまつアズスクエア1階

平成29(2017)年12月1日、小松駅南に新たな学びの拠点となる施設「Komatsu A×Z Square(こまつアズスクエア)」がオープン。その1階に子育ての拠点となる「カブッキーランド」があり、「すくすくひろば」、「クッキングスタジオ」等から構成された子どもの遊び場。

◆すくすくひろば

子どもの遊び場を全国展開している(株)ボーネルンドがプロデュースする遊び場。大型遊具で思いっきり体を動かせる『どきどきゾーン』と、知育玩具などでとことん遊べる『わくわくゾーン』、赤ちゃんが安心して遊べる『にこにこゾーン』の3つのゾーンで構成されている。



◆クッキングスタジオ

国内外で料理教室を運営している(株)ABC Cooking Studioがプロデュースする、子ども専用の料理体験施設。子どもたちが食への関心を深め、食べることときちんと向き合う姿勢を身につけることができる『食育の場』として、子どもたちの健やかな成長をサポートしている。



いこ もり
◇憩いの森 所在地：小松市吉竹町へ302

美しく整備された広大な森。樹木を水面に映す静かな湖の周囲には、森林浴などに最適な環境が整っている。白山麓から移築した古い民家や、珍しい炭焼小屋、そして野鳥の群れなど、楽しいひとときを過ごすことができる。



ろ じょうこうえん
◇芦城公園 所在地：小松市丸の内公園町19

芦城公園は、前田利常の隠居城であった小松城の三の丸跡に作られ、博物館をはじめ、美術館、図書館、茶室等の文化施設を有し、中央には2つの池と滝、それらを結ぶせせらぎを中心に池の背後に築山を配した池泉回遊式庭園となっている。桜やツツジ、菖蒲、百日紅、雪吊りなど、四季折々の風情を楽しむことができる。



芦城公園は、小松で最も親しまれている桜の名所。花見の時期には、露店も出て賑わっている。見頃は4月上旬～中旬である。100本のソメイヨシノをはじめ、シダレザクラ、ヤマザクラなど計130本ほどの桜が咲き揃う。紅葉は11月上旬から色づき始める。



き ば がたこうえん
◇木場潟公園 所在地：小松市三谷町ら之部58

木場潟は、ほぼ自然の姿で残された県内唯一の潟である。周囲をとりまく水田と一体になって優れた水郷風景をなし、折々に姿を変える四季の顔を見ることができる。恵まれた自然を保存し、さらに緑化することにより、景観を楽しんだり、様々なレクリエーションが行える。バードウォッチング・サイクリング・釣りなどを楽しむ自然に満ちた公園である。



にしおはっけい
◇西尾八景

所在地：小松市西尾地区

西尾地区は、小松市の南東方向、郷谷川に沿って点在する集落で、その昔上流に尾小屋鉾山があり栄えていた。町おこしを兼ねて平成7(1995)年に「西尾八景」を選定し、すばらしい山々や、素朴な自然美を紹介している。十二ヶ滝、象岩(弁慶の足跡)、観音山、烏帽子岩、鱒留の滝、鷹落山、大滝、大倉岳以上8カ所が「西尾八景」として選定されている。



じゅうにがたき
十二ヶ滝



ぞういわべんけいあしあと
象岩(弁慶の足跡)



かんのんやま
観音山



えぼしいわ
烏帽子岩



ますどめたき
鱒留の滝



たかおちやま
鷹落山



おおたき
大滝



おおくらだけ
大倉岳

こけさと えいちもり
◇日用苔の里 (Forest of Wisdom・叡智の杜)

所在地：小松市日用町地内

日用杉の産地として知られる小松市日用町の民家や神社周辺を「苔の里」と呼ぶ。この付近は、杉木立の木漏れ日や谷あいの湿度などがコケに適した環境で、昔からヒノキゴケやウマスギゴケをはじめ30種類以上のコケが生育しており、その景観は民家の庭や日用神社の境内で見ることができる。

百年杉と古民家が調和して、伝統的な空間を生み出しているとして、平成4(1992)年に全国農村景観百選に選ばれた。

昭和62(1987)年に大石鉄郎氏が開いた「苔の園」は平成21(2009)年に閉園され、その後は日用町の住民により設立された「日用苔の里整備推進協議会」が範囲を広げ、「苔の里」として、里山の景観・環境の維持管理に努めている。

「苔の里」は、杉の美林に囲まれた苔むす庭園や神社、古民家など全国農村景観百選に選ばれた美しい里山集落の観光開放エリアを、ガイドから自然や生活文化について解説を受けながら、鑑賞することができる。

「Wisdom House」は、町内の木材で建てられた築100年の古民家を改修した交流体験施設で、団体旅行客の休憩、体験学習、国際交流、各種会議、結婚式・ロケ等にご利用できる。



あらまたきょう
◇荒俣 峡

所在地：小松市赤瀬町

小松市内を流れる梯川の源流・大杉谷川中流にあり、「加能八景」の一つに数えられる景勝地。蛇行した流れと、河畔に点在する奇岩、連なる木々、穏やかな水の流れ。澄んだ水面が溪谷を投影・反射し、なお一層の溪谷美を演出している。

周辺には400mほどの遊歩道が整備され、新緑や紅葉の時期には散策する人たちでにぎわう。また、赤瀬温泉や那殿観音といった見所がある。



◇里山健康学校 せせらぎの郷

所在地：小松市瀬領町丁 1-1

瀬領町の自然豊かな里山の恵みを活かして、食育と温泉・スポーツや運動による健康増進、趣味や体験を通じて人の交流と学びによる、生き生き・はつらつとした楽しいひと時が過ごせる場所「里山健康学校 せせらぎの郷」として平成29(2017)年4月29日にリニューアルオープンした。

食育レストランや温泉入浴、人工芝グラウンドではスポーツや運動による健康増進、館内では趣味や体験による学びをテーマとした多彩なカリキュラムにより、仲間づくりと生き生きとしたライフステージが楽しめる施設となっている。



◇里山自然学校こまつ滝ヶ原

所在地：小松市滝ヶ原町ウ 20

小松市は面積の7割が里山地域であり、そこでは、農作物・希少生物・木材・石材などの里山資源をはじめ、伝統を担う職人や技術者、丸谷焼など独自の文化があり、どれも小松の誇りです。それらを継承していくための施設として廃校(廃所)となっていた那谷小学校滝ヶ原分校と滝ヶ原保育所を再利用し、「里山自然学校こまつ滝ヶ原」として平成23(2011)年7月9日にプレオープンし、平成26(2014)年8月9日に本格オープンした。里山体験交流塾、里山生き物調査塾、SATOYAMAグローバル推進塾など“里まなび、山あそび”をテーマに、里山に関する複数の塾活動を自主事業として展開している。他にも日本遺産に認定された小松の石文化を巡るツアーを実施している。里山の魅力に大いに触れて頂きたいと思います。



◇里山自然学校・大杉みどりの里

所在地：小松市大杉町イ 98

心身ともに健全な青少年を育成するために、市が団体宿泊による研修機関として設置したものである。この施設は、青少年の宿泊体験やクラブ合宿、企業研修等に利用され、みどりと清流の素朴な自然の中で、規律正しい共同生活を営みながら協調、友愛、奉仕の精神を培い、よりよい社会人となることを願って設けられた施設である。



にしまた
◇西俣自然教室キャンプ場 所在地：小松市西俣町二301

満天の星と飛び交うホタル、静かな山あいの中で、オートキャンプ・キャンプが楽しめる。西俣川沿いにあるので夏は川遊びやホタル狩り、春秋には山菜採り・栗拾いと四季を通じて自然を満喫できる。小松市街地から南東約15kmの山あいにある。清流西俣川のほとりにオートキャンプ場(30サイト)、キャンプ場(台座11サイト 芝生9サイト フリーサイト10サイト)がある。炊事施設・温水シャワー・コインランドリー・水洗トイレ等が完備されている。



あわづだけやま
◇粟津岳山遊歩道 所在地：小松市粟津町

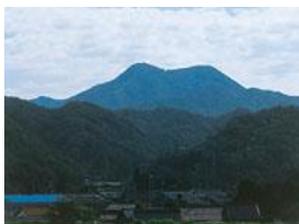
養老2(718)年、泰澄大師によって発見された北陸最古の温泉、粟津温泉の裏背にあるのが^{だけやま}岳山。おっしょべ公園より登り始め、杉木立や石仏が点在する石仏遊歩道を抜けると泰澄大師の石像がある。ここから平坦な山道が山頂まで1.6km続く。

木々が繁り野鳥の声を聞きながら気軽に歩ける遊歩道で、山頂からは、南加賀が一望でき、眼下にはいで湯の里が広がる。お年寄りから子供まで楽しめる格好のハイキングコース。



くらかげやま
◇鞍掛山 所在地：小松市滝ヶ原町

那谷寺の奥の小松市滝ヶ原町の南に位置する。標高478mで登山ルートは、小松市・加賀市いずれからも登山・下山ができるので、好みのコースが選べる。初心者でも無理のないコースもあり、紅葉のシーズンには学生の遠足や若いグループのハイキングにたいへん人気がある。



さんどうじやま
◇三童子山 所在地：小松市滝ヶ原町

遊歩道の途中にある黒岩の洞窟に平安時代3人の修業僧(童子)がいたことが名前の由来だと言われている。四季折々に姿を変える自然景観とともに、美しく雄大な白山を眺めながら歩ける遊歩道がある。山頂付近には山城跡もある。標高は492.82m。



◇ みやもとさぶろう びじゅつかん 小松市立宮本三郎美術館 所在地：小松市小馬出町5

小松市ゆかりの洋画家・宮本三郎の画業を顕彰する美術館である。木造石張りの旧北陸倉庫を増改築し、美術館として再生した建物の中には、卓越したデッサン力と色彩感覚で知られる宮本三郎の作品約180点が収蔵されている。宮本三郎の画業は実に多彩に展開され、ヨーロッパの伝統的な技法から戦後の新しい動向にいたるまで、彼は多様な表現に取り組み、晩年の光彩豊かな作風へと連なっている。展覧会は宮本三郎を中心に、テーマを設けて企画されている。



◇ にしきがまてんじかん 錦窯展示館 所在地：小松市大文字町95番地1

展示館の建物は、徳田八十吉氏が三代にわたり九谷焼の工房、そして、生活の場として利用していた昭和初期の木造家屋を改修したものである。幾人もの陶工がこの工房から輩出されている。

館内には、にしきがま錦窯本体はもちろん古九谷や初代から三代にわたる徳田八十吉の作品をはじめ、初代の遺品や上絵付の道具など、貴重な資料も多数展示している。錦窯とは上絵付に用いる窯のことを指す。その窯の構造は、外窯内窯からなり、外窯の中に内窯を収め、その隙間に薪を焚いた熱が伝わり、内窯の中に収められた作品には直接火が当たらないようになっている。



◇ のぼりがまてんじかん 登窯展示館 所在地：小松市八幡己20-2

小松の花坂村で良質の陶石が発見されたことが契機となり、文化8(1811)年に若杉窯で磁器がつくられるようになった。加賀藩窯「若杉陶器所」として量産体制が確立され、これが、現在の九谷焼産業の基礎となった。天保7(1836)年、若杉陶器所が焼失したため、ここ八幡地内に移転・開窯し、九谷焼生産地八幡の礎となる。明治期に入り、「九谷八幡の置物」として九谷焼の販路拡大に貢献した新分野も開拓し、多くの名工を輩出して現在に至っている。



連房式登窯は、丘陵の傾斜面を階段状に整地し、焼成室を連続して構築した地上式の窯である。本窯の規模は、全長10.9m、幅2.9mで、上下二段に開口する焚口と5房の燃焼室、そして煙道からなっている。八幡における最後の登窯として、昭和40(1965)年頃まで使用されていたものである。近代九谷磁器窯の典型的形式を今に伝えており、昭和48(1973)年に小松市指定文化財となった。

◇^{しょううんどう}ジャパン九谷のふるさと「松雲堂」 所在地：小松市龍助町27

九谷窯元の殿堂であった「松雲堂」。時代の変革期にあって、常に次代を見据え、創造と人材育成に尽くした松本佐平こと松雲堂左瓶をたたえ、こまつ文化、創作活動発信の一拠点として整備しました。現在の建物は昭和8(1933)年頃建てられたもので、昭和初期の小松の町家形式をとどめ、また、窯場には上絵付けを行った当時の錦窯を見ることができる。平成23(2011)年11月に改修工事を終え、現代町家として生まれ変わり、文化・交流の場として活用されている。



◇^{くたに}九谷セラミック・ラボラトリー(CERABO KUTANI) 所在地：小松市若杉町ア91

令和元(2019)年5月24日にオープンした九谷焼の複合型文化施設。九谷焼の原料となる磁器土の製造スペースとギャラリー、作陶体験ができるアトリエスペースも併設しており、焼き物に詳しい方もこれから知りたい方も幅広く楽しむことができる。ショップでは、ギャラリーで展示している作品から、窯元で作られたご家庭で使いやすい商品まで、様々な九谷焼が購入することができる。



◇^{せんそう やしき}茶室「仙叟屋敷ならびに^{げんあん}玄庵」 所在地：小松市丸の内公園町19

かつての小松城三の丸の地にある芦城公園内の茶室。茶室は、「仙叟好み」の趣の十二畳半の茶室(広間)と、小間の茶室「玄庵」からなり、玄庵には裏千家宗家の無色軒にある釘箱棚が写されている。

この茶室は、茶道裏千家十五代鵬雲斎汎叟千玄室が千家四代仙叟宗室居士300年遠忌を記念して先祖の供養のため、平成9(1997)年4月21日に小松市へ寄贈されたもの。和敬清寂の心を汲み取る場として利用できる。



きしやてんじかん
◇ポッポ汽車展示館

所在地：小松市尾小屋町1-1

旧尾小屋駅跡地に保管されていた尾小屋鉄道の蒸気機関車(5号蒸気機関車)・気動車(キハ3)・客車(ハフ1)の3両を移設、保管庫を新築し、平成14(2002)年4月にオープンした。鉄道関係の資料も合わせて展示し、尾小屋鉄道の歴史も振り返ることができる。



おごやこうざんしりょうかん
◇尾小屋鉱山資料館

所在地：小松市尾小屋町カ1-1

尾小屋鉱山は、古くは天和2(1682)年に採掘されていた記録があり、明治10年代より昭和37(1962)年の閉山まで、日本有数の鉱山として繁栄した。

この長い歴史を誇った尾小屋鉱山の関係資料を集めて、阿手坂社宅跡に昭和59(1984)年に資料館が開館。資料と共に岩石や鉱物も展示され、地質や鉱脈の解説もある。資料館に併設して、かつての坑道を利用して整備したマインロードを、平成4(1992)年4月にオープン。江戸時代の坑内の作業風景や、明治以降の近代的な鉱山の様子を、原寸ジオラマ(人形)や実物資料で再現されている。



ゆうせんじ
◇遊泉寺銅山ものがたりパーク

所在地：小松市鶴川町地内

遊泉寺銅山跡(コマツ発祥の地)に、コマツ創立100周年記念事業の一環として、平成29(2017)年から市や商工会議所、コマツ、3地区の町内会(鶴川、遊泉寺、立明寺)などで行く「鶴遊立地域活性化委員会」が進めてきた、「遊泉寺銅山ものがたりパーク」が令和3(2021)年5月8日に完成した。

令和2(2020)年5月10日、遊泉寺銅山を紹介する資料館「里山みらい館」が銅山跡にオープン。資料館は170㎡の平屋建て。事務所のほか、広い休憩室がある。100年以上前、銅山で撮ったモノクロ写真や現在の銅山跡周辺の自然を切り取った写真を展示する。江戸時代から昭和にかけて、銅山の歩みを紹介するパネルや、稼働していた当時の銅山を再現したジオラマ模型もある。また、常駐しているコマツOBの方から話を聞くこともできる。



里山みらい館

遊泉寺銅山跡で整備が進められていた公園「遊泉寺銅山ものがたりパーク」が令和3(2021)年5月8日にオープン。ものづくりの歴史や里山の自然などを感じられる観光スポットとして整備が行われ、広場には、美しく整備された遊泉寺銅山の記念碑や明太郎の銅像がたち、近年、バイオ式のトイレや駐車場も作られている。広場からは高さ20m、直径2.5mの大煙突、精錬所跡、堅坑跡、廃鉱を捨てた砂山などの遺構を巡る遊歩道(3.3km)などが整備されている。



炉跡

砂山頂上からは小松市街の素晴らしい景色が一望できる。また、地域ボランティアの方やコマツの関係者によって植えられた梅林苑や桜、シャガなど季節の花も楽しめる。

5. 幼子を育む —絵本館—

平成18(2006)年7月15日に開館した図書館で、旧小松警察署の庁舎を活用した「空とこども絵本館」と、旧石川商銀信用組合(現在の北國銀行の前身)小松支店の外観・構造を活用した「絵本館ホール夢の本棚」からなる。絵本館および絵本館ホール共に昭和戦前期の建築物であり、登録有形文化財に登録されている。

◇空とこども絵本館 所在地：小松市小馬出町10番地3

石川県で初めて絵本専門の図書館として開館した。0歳からの絵本との出会いを推進するために作られた施設で、赤ちゃんが肌のぬくもりを感じながら豊かな心と言葉を育み、家族とともに成長していく、そんな願いが込められている。

建物は、昭和初期に建てられた旧小松警察署の庁舎を、子ども連れファミリーが利用しやすい優しい雰囲気改装したもの。登録有形文化財にも登録されている貴重な建物だが、『ぶっくりん』という愛称がつけられ、子どもたちのみならず広く市民にも愛されている。



開館時間	午前9時から午後5時まで (ただし入館は午後4時45分まで)
休館日	毎週月曜日(祝日の場合はその翌日) 祝日の翌日 毎月第2・第4木曜日(図書整理日) 年末年始
入館	小学生以下は保護者の同伴が必要。

◇絵本館ホール夢の本棚 所在地：小松市京町19番地5

絵本館ホール夢の本棚は、空とこども絵本館の分館として作られた建物。館内には、小ホールをはじめとして、館のシンボルともいえる螺旋階段をあがると、暖炉を備えた洋室がある。小ホールの大きな吹き抜けは、そのままでも心地よい音響効果があり、おしゃれな音楽会、コンサートホール、発表会などに一般利用できる。



6. 日本美術の粹に触れる こまつしりつほんじんきねんびじゅつかん ー小松市立本陣記念美術館ー

所在地：小松市丸の内公園町19

◇小松市立本陣記念美術館の由来

小松市立本陣記念美術館の収蔵品は、本陣コレクションによって構成されている。近現代の日本画の優品を中心に、油彩画、古九谷をはじめとする東洋陶磁器、漆工品、茶道具など、その内容は多岐にわたっている。

小松市出身の本陣甚一(元北國銀行頭取・小松市名誉市民)は、およそ40年かけて収集された美術品を昭和63(1988)年、小松市に寄贈された。市では、ふるさとの芸術文化の発展を願う氏の意向を受け、平成2(1990)年に、小松市立本陣記念美術館(黒川紀章設計による江戸時代の蔵を現代風にアレンジしたユニークな円筒形をした美術館)を建設・開館した。平成10(1998)年には工芸品を中心とする2度目の寄贈、その後も遺族より数度の寄贈を受け、現在総数1000余点のコレクションを収めている。年に数回、企画展や特別展を開催しており、質の高い日本美術を鑑賞できる美術館として市民に親しまれている。



◇主な所蔵作品

日本画	東山魁夷 前田青邨 川端龍子 小倉遊亀	森の道・秋装・冬木立・潮音・青き淵・明宵 紅白梅・鯉・こぶしと小禽・住吉詣 山百合・牡丹 梅・薄暮
油彩画	梅原龍三郎 中川一政	薔薇図 花と果物
工芸品	古九谷色絵鳳凰宝 壺 函 平鉢 五十嵐道甫	色替玉子手高麗茶碗 菊二籬文時絵硯箱

◇利用案内

開館時間	午前9時から午後5時まで(ただし入館は午後4時30分まで)
休館日	祝日の翌日 毎週月曜日(祝日を除く) 展示替え期間 年末年始(12月29日～翌年1月3日)
入館料	一般300円 団体(20名以上)250円 高校生以下無料 ※障害者手帳をお持ちの方及びその介護者1名は無料 ※特別展についてはその都度定めます。 ※こまつミュージアムパス対象施設



7. 祭り・イベント

- 4月 芦城公園桜の見ごろ（芦城公園）
桜フェスティバル（滝ヶ原町公民館周辺）
安宅漁港びちびち市（安宅漁港）
- 5月 横谷みずばしょうの見ごろ（丸山町）
日本こども歌舞伎まつり in 小松（石川県こまつ芸術劇場うらら）
お旅まつり（菟橋神社・本折日吉神社）
- 6月 利常公宮渡祭り（小松天満宮）
こまつクロスカントリー
木場潟公園花菖蒲の見ごろ（木場潟公園）
菖蒲湯まつり（栗津温泉）
- 7月 小松市民スポーツ大会(夏季大会)（小松運動公園 ほか）
かぶとまつり（多太神社）
- 8月 筆供養（小松天満宮）
スモールワールド in KOMATSU（小松駅前市民公園）
おっしょべまつり（栗津温泉）
西瓜まつり（菟橋神社）
- 9月 安宅まつり（安宅住吉神社）
悪魔祓い（向本折白山神社）
御前様まつり（原町）
航空祭（航空自衛隊小松基地）
大倉岳高原まつり（大倉岳高原スキー場）
KOMATSU全日本鉄人レース（小松ドーム）
- 10月 こまつマラソン勸進帳（小松運動公園末広陸上競技場）
どんどんまつり（小松駅前）
- 11月 那谷寺紅葉の見ごろ（那谷寺）
日本遺産サミット in 小松（石川県こまつ芸術劇場うらら ほか）
小松市スポーツフェスティバル（こまつドーム）
小松市民スポーツ大会(冬季大会)（義経アリーナ ほか）※11月下旬、1月下旬

◇お旅まつり



お旅まつりは菟橋神社と本折日吉神社の春季祭礼で、その始まりは、加賀前田家三代利常が小松城に隠居した寛永17(1640)年頃だといわれている。両社の神輿が巡行の際、小松城門前へ赴き、前田家の平穩と加越能三州の泰平を祈願するとともに、それぞれの御旅所(御仮屋)へ渡御・駐留し、氏子町内を巡幸した。神輿が渡り歩くように「お旅」するので祭りの名称になったといわれている。

江戸時代、菟橋神社の春季例祭は旧暦4月15日で、享保15(1730)年に「浜田のせきの上」に御旅所の小屋が建てられ、4月13日に神輿が渡御・駐留し、15日に氏子町内を巡幸した。

一方、本折日吉神社の春季祭礼は旧暦4月の申の日に行われた。文政5(1822)年頃は祭礼3日前の深夜に神霊が本堂から神輿に移されたのち、「太郎丸」の御旅所へ渡御して3日間駐留し、駐留3日目の中の申の日に至って氏子町内を巡幸した。

嘉永6(1853)年に両社の春季祭礼が旧暦4月15日に統一され、明治6(1873)年に新暦5月15日へ切りかえられた。御旅所での逗留は無くなり、平成14(2002)年には、5月の第2土・日を祭礼期間に入れる形へと時代に応じて変化しており、360年以上にわたり伝統が受け継がれている。

<曳山のはじまり>

曳山は、文化14(1817)年に能美郡奉行所の小吏が書いた『螢のひかり』によれば、明和3(1766)年、龍助町と西町から始まったといわれている。当時の小松は、利常公が奨励した絹織物など諸産業が発展し、十分な経済力と技術力、町民文化の粋と職人の技をもって曳山を作り上げた。最初は簡単な移動式舞台のようなものだったそうだ。

また、小松の曳山は、近江長浜(現 滋賀県長浜市)の曳山まつりの影響を受けたとみられている。昭和24(1949)年に書かれた『むかしの小松』によれば、安永5(1776)年に、長浜の古い曳山を買い受けることになり、屋根や柱など主な部分を解体して小松へ運んできた。小松の大工たちは、少しでも立派なものにしたいと改良し、組み立てられた曳山は原形をとどめないほど小松独自の形に仕上がった。こうしてできた松任町の高楼式の曳山が曳きだされると、他の町でも次々と高楼式の曳山が造られるようになり、ついに曳山は10基になった。残念なことに、二度にわたる昭和の大火により松任町(橋北の大火 昭和5(1930)年)と東町(橋南の大火 昭和7(1932)年)のものが焼失し、現在は8基になっている。

小松市内を流れる九龍橋川を境に、北側を「橋北」、南側を「橋南」。菟橋神社は橋北にあり、本折日吉神社は橋南。お旅まつりはこの両社の春季祭礼だが、昔からずっと御神輿と曳山は川を越えることなく、それぞれの氏子町内を練っていた。平成2(1990)年、市制50周年を記念して、市役所前で曳山八基の曳揃えが行われ、橋南の曳山5基が初めて九龍橋川を渡った。以来、「曳山八基曳揃え」はお旅まつり最大の見せ場となっている。

現存する8基の曳山は昭和40(1965)年11月に小松市指定文化財となり、お旅まつりの曳山行事は平成11(1999)年7月に石川県の無形民俗文化財に指定された。曳山の上で演じられる子供歌舞伎は、近江長浜、武蔵秩父とともに、全国でも有数の子供歌舞伎として名高い。

<曳山をもつ町紹介と曳山>

◇寺 町

寛政末(18世紀末)年頃に建造されたと伝えられている。江戸時代の末、大聖寺藩主正室から唐銅宝鐸を賜り、屋根の四隅に飾り、天井には北市屋平吉の鳳凰図が描かれている。工夫と趣向が凝らされた曳山。

舞 台 幅 : 2.83m 屋 根 幅 : 3.54m

最大奥行 : 7.79m 高 さ : 5.78m



◇大文字町

寛政年間(1789年~1800年)に、那谷寺造営に当たった加賀藩の名匠・山上善右衛門の流れを組む工人達が建造し、那谷寺の本殿を再現したといわれている。床場、見送りの開き扉には、牡丹に唐獅子の彫刻がある。

舞 台 幅 : 2.80m 屋 根 幅 : 3.55m

最大奥行 : 7.80m 高 さ : 5.77m



◇八日市町

寛政年間(1789年~1800年)の建造。那谷寺の鐘楼をかたどった唐門式の二重屋根構造で、破風の扇垂木も特色がある。天井画には九谷作家・北村隆によって描かれた青龍・朱雀・玄武・白虎の四神が描かれ奈良薬師寺管主による「日」「月」の筆入れがされている。

舞 台 幅 : 2.85m 屋根幅 : (上)2.92m (下)3.68m

最大奥行 : 7.15m 高 さ : 6.57m



◇龍助町

寛政年間(1789~1800)頃に建造されたと伝えられている。二重屋根で四隅には町名にちなんだ龍の彫刻を飾り、天井には九谷焼の名工・一代松本佐吉が描いた龍の墨絵がある。また螺鈿の部分は輪島塗の人間国宝・前史雄により塗り直されている。平成24(2012)年には雲板が修繕され、建造当時の華やかな姿がよみがえった。

舞 台 幅 : 2.85m 屋根幅 : (上)2.91m (下)3.66m

最大奥行 : 7.16m 高 さ : 6.95m



◇西 町

寛政2(1790)年に加賀藩の名匠・山上善右衛門の流れを組む西町在住の大工の棟梁・藤山清九郎が建造したことが、曳山土蔵から発見された棟札で確認されている。唐門式の風格ある様式美が見事な曳山。

舞 台 幅 : 2.61m 屋根幅 : 3.79m

最大奥行 : 7.88m 高 さ : 5.91m



◇京 町

寛政4(1792)年の建造。大正初年に京町で三代にわたる彫り師・村上鉄堂(1867～1919年)が、また昭和34(1959)年には鉄堂の高弟で同じく京町出身の吉田榎堂(1896～1986年)の作品が「見送り」や「むしこ」の彫刻に加えられた。

舞 台 幅 : 2.90m 屋 根 幅 : 3.51m
最大奥行 : 7.54m 高 さ : 5.66m



◇材木町

文化10(1813)年に建造され、現存している中では一番新しい。江戸後期の九谷焼の名工・栗生屋源右衛門の描いた15枚の花鳥図が格天井に組み込まれている。平成2(1990)年に大修理を行い、組み物にも金箔が施された。

舞 台 幅 : 3.09m 屋 根 幅 : 3.52m
最大奥行 : 7.16m 高 さ : 5.63m



◇中 町

寛政末(18世紀末)年頃に建造されたと伝えられている。屋根下の組み物が極彩色で美しく、柱は青貝入りの研ぎ出しで、豪華である。全体的に均衡がとれていて、実に優美で、見事な曳山。

舞 台 幅 : 2.80m 屋 根 幅 : 3.55m
最大奥行 : 7.80m 高 さ : 5.79m



(まるごと・こまつ・旅ナビより)

◇中学生による「歌舞伎勸進帳」公演

昭和61(1986)年から、中学生による古典教室「歌舞伎勸進帳」公演が始まった。中学校文化連盟生徒発表の一環として、毎年11月におこなわれる。市内中学校が持ち回りで1校が、「勸進帳」を上演するというもので、役者はもちろん、着付けや化粧・大道具・小道具などの裏方まで、全てを生徒たちの手で行っている。

◇日本こども歌舞伎まつり in 小松(旧:全国子供歌舞伎フェスティバル in 小松)

小松市では、250年以上の伝統を誇る「曳山子供歌舞伎」と、歌舞伎勸進帳の舞台として有名な「安宅の関」を活かした地域活性化を目指し、平成11(1999)年からお旅まつりに併せて「全国子供歌舞伎フェスティバル in 小松」を開催していた。令和元(2019)年からは名称を「日本こども歌舞伎まつり in 小松」と改め、内容もリニューアルされた。このまつりには地元小松市のほか、全国からトップクラスの伝統芸能団体をゲストに招いており、市内外からも多くの歌舞伎ファンが訪れている。小松市の演目は毎回「勸進帳」に決まっており、市内の小学生を対象に公募し、オーディションによる役者決めから半年足らずの稽古で本番を迎える。

◇^{しょうぶゆ}菖蒲湯まつり

毎年6月4日、5日に菖蒲の束を入れた湯につかり、一年の健康を願う古くからの風習がまつりとなったもの。湯の町栗津では縁起ものとされ、代々続く伝統の行事。若衆がかつぐ菖蒲みこしが街中を練り歩く豪快なまつり。



◇かぶとまつり



毎年7月の下旬に多太神社で行われるまつり。平家の老武将^{さいとうべつとう}斎藤別当実盛が倶利伽羅峠の合戦で敗れ、加賀の篠原で再び陣を取り戦ったが、木曾義仲軍の前に総崩れとなった。そんな中、実盛は老体であったが踏みとどまって奮闘し討ち死にした。後に、義仲が戦勝祈願のお礼と実盛の供養のために、多太神社に兜を奉納した。実盛の霊を慰めるために、実盛にまつわる舞や吟詠を奉納し、霊を慰める儀式が古式ゆかしく行われる。

◇おっしょべ祭

毎年、夏も名残の8月最終週末の木・金・土曜日は、栗津温泉あげでの「おっしょべ祭り」が開催される。以前から「湯の祭り」「湯祭」と言われ、大王寺の薬師如来を祀り、開湯を記念したお祭り、毎年夏の終わりに盛大におこなわれる。「おっしょべ」とは昔、宿に奉公していた下女「お末」の名前が訛ったもので、そのお末の恋物語があわづ民謡「おっしょべ節」となった。この祭りのために訪れた観光客や地元の踊り上手が、揃いの浴衣でおっしょべ節と太鼓の響きに合わせて踊り興じる2日間。おっしょべ踊りの輪が華やかに広がる。期間中には「おっしょべ踊りコンテスト」も行われ、毎年全国からたくさんの団体が参加して、踊りを競い合う。優秀な踊りを踊った団体には賞品が送られる。



◇^{すいか すいか}西瓜(水火)まつり



菟橋神社の秋季祭礼を「西瓜まつり」という。昔、この秋祭りに、西瓜を売る店が何軒も並んだことが、祭の語源となっている。

本来は「水火まつり」が正しく、「水」と「火」の祭りである。どちらも我々の生命にとって、根幹に関わるたいへん重要な要素である。反面、洪水や火災など一度暴れ出すと手に負えない脅威ともなる。「水」と「火」の大いなる恵みに感謝する、そして大自然に^{いけい}畏敬の心を表すことが、このお祭りの意義である。

8月27日には、「水と火の神事」が行われる。^{ごじんか}御神火で清められた御神水が参拝者に振る舞われる。この水を飲むと1年間、^{むびょうそくさい}無病息災で過ごせるといふ。また、御祭神に^{らな}囚んで、古来より、力くらべの神事が行われている。1つは27日の子供相撲で、もう1つは27日と28日に夜の土俵の上で行われる磐持ち神事である。この力くらべは毎年、西瓜まつりの名物神事となっている。

◇安宅まつり

安宅の輪踊りは、約300年前、勝楽寺の境内で念仏踊りとして始まって以来、港町安宅の伝統行事として踊り継がれてきた。昭和6(1931)年、関所音頭ができた。当時の人々の努力と工夫で現在の日本髪を結び、赤襦袢あかじゅばんを着て踊る形になった。当時は、若い娘達がそのような姿をしていたので、嫁定め祭りともいわれ、現在でも、日本髪を結び、赤襦袢を着て踊るのは、16歳～30歳位の未婚女性のみである。関所音頭や安宅小唄に合わせて踊る艶やかな姿は必見である。毎年9月7～9日の3日間に行われる。

9月になると遠方にでかけている人も町に帰って神輿をかつぎ、県内ではこの町だけの曳船にも参加する。



獅子舞



神輿渡御



曳船神事

金色に輝くおみこし(神輿渡御)を男衆は力強くかつぎ、若連中による奉納行事の獅子舞や船名旗を何本もたてた船(曳船神事)も町中をかけまわる。日が沈むと梯川添いには、赤、白、青の献燈が三百燈もつき、川面に明かりが映える。娘達は真っ赤な襦袢じゅばんに黒い帯を締め、日本髪に結って大輪踊りを奉納する。

◇どんどんまつり

小松周辺は昔から太鼓の盛んなところ。まつりを象徴する太鼓の響きにのせてどんどん集まろう、発展させようとの心意気を表した、市民による新しい祭り。市民総参加で、ステージパフォーマンス・音楽祭・グルメ横丁等さまざまなイベントが楽しめる。



◇あくまばら悪魔祓い(市指定無形民俗文化財)

毎年、向本折白山神社では、秋祭りが終わった夜に悪魔祓いの儀式が行われる。境内すべての明かりが消され、男面を付けた舞人が、提灯を持った男衆に先導されて登場する。男面は、力足を踏み、鬼門に向かって矢を放った後、いったん退場し、女面に妊婦の姿をした舞人とともに再び現れ、鬼門に矢を放つ。舞は、終始無言で進められる珍しいもので、悪魔退散と安産、豊作祈願が込められている。悪魔祓いは水害で広がった疫病をしずめる神事として100年以上前から伝わっている。



◇御前様祭り

平安の昔、加賀、軽海郷(現在の原町)より京へ上り舞の名手と
うたわれ、平清盛の寵愛をうけた白拍子・仏御前の尊像・墓・屋
敷跡が残っている。毎年9月6日に、原町の個人宅に安置されて
いる仏御前の乾漆坐像の前で、白拍子の舞を奉納し、近隣から集
まった人々は縁起を読んで仏御前を偲んでいる。原町の子供たち
が扮する白拍子も凛々しく美しく、仏御前を彷彿とさせる。



御前様まつりは昭和40年代ごろから、白拍子の舞は平成8(1996)年から始められた。

◇航空祭



F-15の機動飛行、編隊飛行などに加え、救難隊などの展示飛行、
ブルーインパルス[®]の展示飛行が行われる。

◇KOMATSU全日本鉄人レース



こまつドームをメイン会場に繰り上げられる白熱・興奮の鉄人
レース。第1回目は、昭和57(1982)年10月17日のレースから始ま
り、小松市の活性化とまちづくりを目的に、青年のエネルギーを
結集して始められた事業である。

「鉄人」～人生を感じながら走りたい

BIKE 60km 登山 10km RUN 20km

「ロング」～長い距離を心ゆくまで楽しみたい

第1RUN 6 km BIKE 60km 第2RUN 20km

「ショート」～初めての人でも挑戦できる

第1RUN 6 km BIKE 60km 第2RUN 6 km

「チーム」～3人で心合せて

第1RUN 6 km BIKE 60km 第2RUN 20km

◇スモールワールド in KOMATSU



毎年石川県で開催される「ジャパンテント」の期間中に、「スモ
ールワールド in KOMATSU」が賑やかに繰り上げられる。

その留学生達を歓迎するために始まったスモールワールド in
KOMATSU は、今では小松市在住外国人も交えた一大イベントに成長。
在住外国人たちが、自国の料理を作ってふるまったり、ダンスを披
露したりするのが、このイベント。民族衣装の着付けや、お茶会、日本食のコーナーもあり、
国際交流は大いに盛り上がる。

参考文献一覧

- ・ 「郷土の花はな」
- ・ http://www.city.komatsu.ishikawa.jp/kakuka/ryokuka/kouengaido/s_rozyoukouen.asp
- ・ <http://kimassi.net/kaga/rojoukouen.html> - 3k
- ・ <http://hongakuji.moo.jp/>
- ・ <http://homepage2.nifty.com/shuyo/sub%2001yuisyo.com/>
- ・ <http://www.ishikawa-c.ed.jp/basyou/komatsu/ubashi/ubashi.htm>
- ・ <http://www.asahi-net.or.jp/~gi4k-iws/sub85171kensyouzi.html>
- ・ http://www.komatsushikankoukyoukai.com/back020401_2.html
- ・ <http://www.natadera.com/>
- ・ [http://kanko.tabimado.net/kanko/go/resource\\$id=BMIS000035](http://kanko.tabimado.net/kanko/go/resource$id=BMIS000035)
- ・ http://travel.nifty.com/cs/catalog/travel_595/catalog_17000603_1.htm
- ・ <http://hokubi04-web.hp.infoseek.co.jp/9.okunohosomichi.html>
- ・ <http://www.pref.ishikawa.jp/bunkazai/kougeihin/10.htm>
- ・ <http://ataka-no-seki.or.jp/maturi.htm>
- ・ <http://www.osuwasan.com/uhashi%20jinja.htm>
- ・ http://www.ataka.or.jp/nenjuu_3.htm
- ・ 旅まちネット <http://www.tabimati.net/index.php>
- ・ じゃらんnet <http://www.jalan.net/>
- ・ Yahoo!トラベル <http://travel.yahoo.co.jp/>
- ・ Travel@nifty <http://travel.nifty.com/>
- ・ JRおでかけネット <http://www.jr-odekake.net/>
- ・ 里山自然学校 大杉みどりの里 <http://www.oh-sugi.com/>
- ・ ほっと石川旅ネット <http://www.hot-ishikawa.jp/>
- ・ 国府 <http://www.hakusan.ed.jp/~kokuhu-j/sub7.html>
- ・ 法師 <http://www.ho-shi.co.jp/>
- ・ 鯉 kissnet.or.jp/pub/azarashimari/aza_kikou/burari/nisio8kei/12gataki.htm
<http://homepage1.nifty.com/jks/02jinja%20komatu.htm>